

# ヘアリーベッチ栽培は省力的な抑草効果が期待できる

## (南相馬市小高区)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付実証(県による実証研究)

研究課題名 除染後農地の効果的な農地保全管理の実証(南相馬市)

担当者 齋藤隆・松木伸浩

### I 実証技術の解説

#### 1 要旨

農地除染(表土剥ぎ、客土)後の地力低下が懸念されている。また、農地の除染が完了しても本格的な営農再開までは年数を要することが想定される。営農再開までの保全管理期間中に地力増進作物を用いることで、有機物供給と雑草抑制効果を期待できるが、本実証では、ヘアリーベッチの栽培が地力増進と保全管理に適することを確認した。

- (1) 作付前の化学性は全炭素がやや低いものの、その他の項目は概ね普通畑の改良基準を満たしていた(表1)。
- (2) 雑草乾物量は、無処理区では 705kg/10a と多かったが、ヘアリーベッチ栽培区では 22kg/10a と 3.1%に低減できた。また、無処理区では雑草の被覆率が 60%であったが、ヘアリーベッチ栽培区では 5%であり、大幅に抑草できることが明らかになった(表 2)。
- (3) 土壌への窒素供給量との関係は判然としないものの、可給態窒素(pH7.0 リン酸緩衝液抽出法)が高まることが明らかになった(図 1)。

#### 2 期待される効果

- (1) 除染後の保全管理期間中に、地力増進作物を導入する際の参考資料となる。

#### 3 活用上の留意点

- (1) 供試品種は「寒太郎」であり平成 27 年 9 月に播種し、平成 28 年 10 月 17 日にすき込んだ。
- (2) ヘアリーベッチを導入する際は、播種時期毎に適した品種を選定する必要がある。
- (3) ヘアリーベッチは、夏場においても全草が枯れた状態では場を覆うことで抑草効果が認められたため、10 月にすき込んだ。

## II 具体的データ等

表1 現地実証ほにおける作付前土壌の化学性(H27)

pH	EC	CEC	交換性塩基(mg/100g)			可給態 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (mg/100g)	T-C (%)	T-N (%)
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
(H <sub>2</sub> O)	(mS/cm)	(meq/100g)						
6.0	0.25	20.4	115	67	28	21.1	2.3	0.18

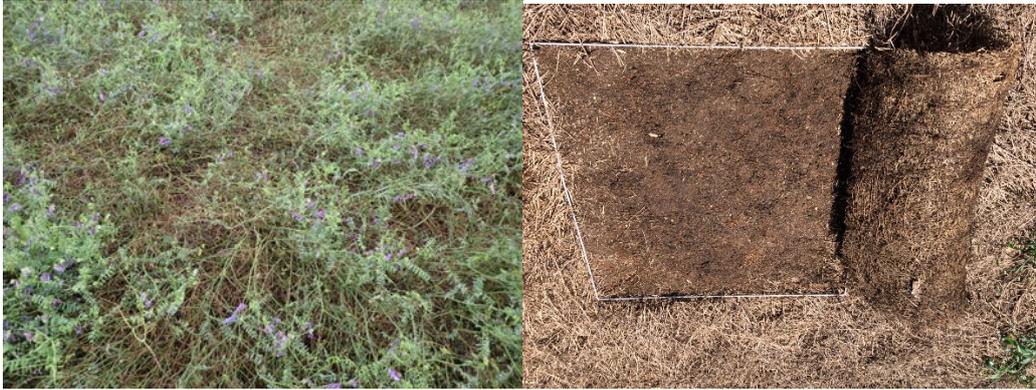


写真1 ヘアリーベッチ: (左)H28/6/23、(右)H28/8/19

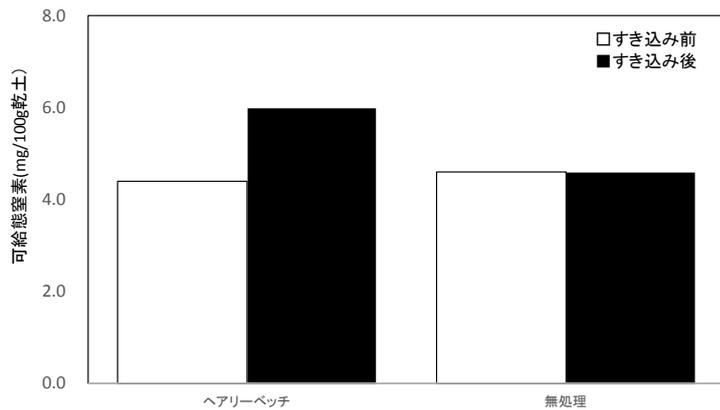


図1 すき込み前後の可給態窒素の変化

表2 被覆率と雑草発生量(H28)

区名	被覆率			雑草発生量 (kg/10a)
	ヘアリーベッチ	雑草	裸地	
		(%)		
ヘアリーベッチ	95	5	0	22
無処理	0	60	40	705

注1) 被覆率は1m<sup>2</sup>あたりのヘアリーベッチ、雑草および無毛エリアの占有割合を示す。

注2) 被覆率は達観調査による。

## III その他

- 1 執筆者 齋藤隆
- 2 実施期間 平成28年度
- 3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1)地力増進作物としての栽培ヒエ、セスバニア、クロタリヤ栽培の実証(葛尾村)(平成25年度営農再開実証技術情報)